

## 学校にCO2モニターを エアロゾル感染を防ぐ

新型コロナウイルス感染症では、学校でのクラスター発生が全国的にも多く報じられ、学校における感染リスクをいかに抑えるかが注目されています。

1000ppm以下

換気を確実に行うには、人の勘ではなく、CO2濃度を数字で確認しながら行う事が大切です。

特にマスクを外す給食時間は重要です。

文科省のマニュアルでは、冬季においても「30分に1回以上、少なくとも休み時間ごとに、窓を全開にします。」としています。

さらに、機器による二酸化炭素濃度の計測では「換気の指標として、学校薬剤師の支援を得つつ、CO2モニターにより二酸化炭素濃度を計測…。

学校環境衛生基準では、1500ppmを基準としています。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会では…1000ppm以下が望ましいとされており、昼食時には換気を強化する」としています。（学校の新しい生活様式）

### 食事の場の換気

3月12日の衆院厚生労働委員会で、日本共産党の宮本徹衆議院議員は、感染リスクを下げるために、飲食店等でのCO2モニターを使つての換気対策への支援を求めました。

尾身茂コロナ分科会会長は、「ここにきてマイクログ飛沫感染（空気を介したエアロゾル感染）が世界的に見ても重要視されてきている。食事の場においても換気がいままで以上に重要になってきている」と述べています。

さらに「二酸化炭素濃度を定期的にモニターして1000ppmにならないよう、常に換気を考えるような、食の場における文化」を呼びかけました。

### 県の認証制度

山形県では令和3年度に新たに「山形県新型コロナウイルス対策認証制度」を立ち上げ、飲食業者や宿泊業者が、認証取得するために導入した設備投資等に、補助金を創設しました。その中に二酸化炭素濃度測定器も対象に入



民報HP

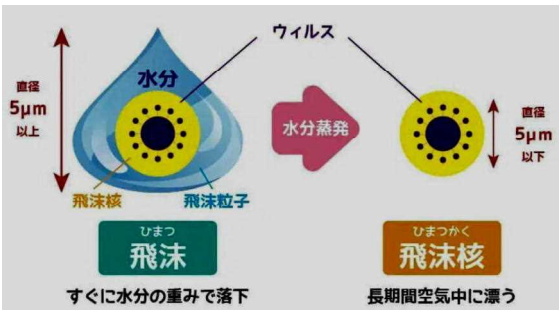
っています。

山形県朝日町立病院では、HPに「常時換気と二酸化炭素濃度の常時測定」を掲載しています。（写真）



### エアロゾル感染

※エアロゾルとは、空气中に浮遊している小さな粒子のこと。感染者の飛沫から水分が蒸発し、飛沫よりも小さく軽いため、空气中に浮遊して残りやすいといわれています。



## 月山とわたし 5

加藤貞雄（山王町）

### ■仏生池まで

最初の難所を越えると草原地帯がゆるやかに起伏し、ところどころに岩が突き出て、名も知らぬ高山植物の花が咲き集つ。

岩石と共存しているハイマツ地帯や雪圧で曲がつた灌木、密生するササやぶのなかを通り抜ける。

大きな雪渓が沢に向かって急斜面をつくつて落ち込んでいた。その表面には大きなスプーンで削つたように風紋が波打ち、ガスが低く漂つていて冷気が快く肌をなでる。

苔で覆われた巨岩を乗り越えようと、つづら折りの山道が見え隠れして登山者の姿が点々と見えた。

ケルンの乱立する「賽の河原」で腰をおろす。目に映じるものすべてに画興が湧き、スケッチをする。古来、芭

蕉をはじめ幾多の人々が、何を思いながらここを通り、この岩に手をかけて登つただろうかと、感慨にひたる。

9合目の仏生小屋に辿りつく。すぐ近くに小さな池（仏生池）があり、その縁には赤い前垂れをたらしめた小さな石仏が並んでいた。池の底には沢山の小銭が鈍く光っていた。

小屋の前の岩に腰掛けてスケッチする。白装束の一团が私の前を通り過ぎ、挨拶がてらに絵を覗く人もいた。

小屋を出て間もなく眼前に大きな山が現れた。「え？あれが頂上？」と思わせるので、オモワシ山というらしい。その坂はきつく、長く、リュックの重さが身にこたえた。

登り切ると、またカラマツと草原の広がりが出た。（つづく）



名刹東源寺には由良の香頭ノ浜に打ち上げられたという「木造釈迦如来坐像」があり、西目のお釈迦様として近郷近在の人々から熱い信仰を集めているという。

私も寺を尋ねた時、寺の奥さんからお茶をご馳走になったり、お釈迦様を拝ませてもらってお世話になった事も有って、荒倉山に登る時はいつもこの寺に立ち寄るようにしている。

少し坂道になった寺の参道から眺める景色が、私のお気に入り、桜の咲く頃や晩秋の頃の眺めは、長閑で格別な感興を覚える気がする。

山口集落を通過して、横道利一が別荘でも建てたいと言ったとか、言わないとかと言われる峠「鞍乗り」を、右に向かうと荒倉山山頂左に向かうとテレビでも放送されたことがあった展望台に着く。

天気の良い日は、粟島は勿論、佐渡島まで見渡せる所で、水沢駅から歩いてきた足を小休止後、由良温泉に向かつて下っていくと大きなホテル前に着く。

ここで「庄内海岸アルプス」は終わるのだが、私は電車で来ているので、由良からのバスが無い場合は三瀬駅までトコトコ歩かなければならない。

子どもの頃、海浜学校というのがあって、三瀬の気比神社で小休

止後に、曲がりくねった田圃道を、三瀬から由良まで歩かされたも

のだなどとブツブツ言いながら歩くと、やがて三瀬の集落に入る。

(水沢駅

前には「夜の靴」という一杯飲み屋があったて、入ってみたいと思つて、その思いは未だはたしてない。

店は美人でなく、白土工場か郵便局を退職した方がやつているそ



荒倉山周辺の遊歩道マップ(地藏堂から荒倉山頂を経て由良に至るコースが通常のコース)

# 世界の国々 オーストラリア 世界最大のグレート・バリアリーフ 青山崇

オーストラリア北東岸に広がる世界最大のサンゴ礁地帯、2600kmを超え、29000以上の暗礁群と約900の島を持ち、総面積は34万4400km<sup>2</sup>以上で、ほぼ日本の面積である。

バリアは障壁、リーフはサンゴ礁で、バリアリーフは陸地を守るサンゴ礁地帯のこと。生物が作り出した単一の構造物としては世界最大である。

その生物とは微小な

サンゴやポリプ等の有機体であり、これらが数十億集まって形成するサンゴ礁は、生物多様性を支える重要な役目を持ち1981年世界遺産に登録された。

この観光収入は年840億円に上り重要な財源ともなっている。

オーストラリアは1901年、19世紀以来イギリス植民地から独立した。面積769万km<sup>2</sup>は日本の20倍ほどであるが、国土はグレートサンデ

イ砂漠等の砂漠を含む低い大地が広がり、起伏が小さな大陸である。大陸の東側にグレートバイディング山脈が延び、最高峰は首都キャンベラ(37万人)の南西のゴジアスコ山(標高2228m)である。

東側は温暖湿潤気候の過しやすい気候で、メルボルン(531万:1位)・シドニー(508万:2位)などの大都市に集中し、2565万人の人口の大部分は都市に住んでいる。



(キャンベラ市街とグリフィン湖を望む)



## 宝の山は

地元こんな近くに素晴らしい宝の山があったのを見せてもらった。例年春秋2回の研修なんだが、去年はコロナで休んだこの事業は、東田川文化記念館の郷土研究サークル会長 穂積恒雄氏)の春の研修会だ。

ある。猪は掘るのが楽だろうなと思われる程、フワフワしている。何年もモミ殻を入れて土を作ってきたんだと。▲花が終わったシラネアオイに今が盛り。クマガイソウ。伸びつつあるエビネラン。ウラシマソウにマムシグサ。どれも長年かけて増やして来たものと言う。

▲買うに買えない物だから、多くの人にどうしたら見せられるかを考えている。だから、道なきところに道をつけている。材料を持ち込み滑らないように。その努力に感心する。山を愛すればこそ。次の山もクマガイソウが群生。日本中、密な杉林が多いが、杉の枝が20センチ程上に見えない。いい柱が取れるように管理されたんだ。▲宝の山は努力次第か。お昼には帰り、孟宗・わらびにシイタケを、たつぷりお土産に頂き、皆で分けた。(石川)